

## ティーチング・ポートフォリオ

大学名：大手前大学 所属：国際日本学部 名前：古川 拓磨 作成日：2025年12月10日

### 1. 教育の責任

専門分野である英語圏の文学の知見を活かし、アメリカ文化関連科目、英語関連科目を担当している。授業毎の内容により重点は変わるものの、客観的・批判的思考を身につけるべく授業内のディスカッションや課題を取り入れている。2025年度の担当科目は以下の通りである。

①アメリカ人の国民性（春秋学期）、②アメリカの地域と文化（春秋学期）、③英語演習 I（春学期）、④英語演習 IV（秋学期）、⑤英語コミュニケーション（秋学期）、⑥英語プレゼンテーション（秋学期）、⑦英語 I（春学期、中級 2 クラス、初級 1 クラス）

### 2. 教育の理念

現代の日本社会で生活する者にとり、アメリカ合衆国という国との政治・文化的関係性や英語の学習は分かち難くあると考える。ただそれらを受容するのではなく、クリティカルに検討する姿勢を大切にしたいと考えている。

例えば上記①②のようなアメリカを考察する講義科目においては、一般的に広く認知され賞賛されるアメリカのポップカルチャー（音楽や映画）や文学作品などを鑑賞しつつ、一方で現代まで根強く残る人種差別の問題、ジェンダーやセクシュアリティをめぐる議論など負の側面ともいべき事象がいかに内包されているか提示し、議論する。

③～⑥の英語関連科目においても、言語運用能力を向上させることを第一の目標に据えつつ、発音や文法の規則を身につけさせるが、「英語帝国主義」とも揶揄される今日において、非ネイティブ話者としていかに自身の英語を駆使して社会を見つめていくことができるのか、考えるよう導いていくことが大切であると考えている。

これらはいずれも本学の建学の精神 Study for Life に基づいた「豊かな教養と専門知識およびその活用力、優れた国際感覚と他者と協働して問題を解決する能力」を養うための使命と強く共振するものである。

### 3. 教育の方法

#### ○バランスの良い英語基礎能力の向上

受講者の多くは英語に関心を持ちある程度の運用能力を備えている一方、中には苦手意識を抱えたままの学生も存在する。受講者全員が主体的にかつ楽しく授業に臨むことができるよう、以下の工夫をしている。① 4 技能（読む・聞く・書く・話す）のバランスの取れた内容：学生により 4 技能の得意・不得意はさまざまであるため、満遍なく指導、評価することが求められる。英語での積極的な発言や回答を求める一方、筆記による小試験なども課すことで発表の機会を逃しがちな学生の評価に繋がられるようにしている。

#### ○主体的な学びの環境を提供

講義科目、演習科目共に、学生からの積極的な発言を評価している。毎回の授業において学生—教師間の対話、学生同士のディスカッションの時間を設けることで、学んだ知識をもとに客観的思考の下自分の意見を述べられるよう訓練している。授業冒頭にスモールトークの時間を取り、平易な会話表現を学ぶ。トピックを提示した上でのディスカッションでは論理的な回答を組み立てられるように導き、課題として提出させる。それらに対し次の回の授業にてフィードバックを施している。

#### ○英語 + アルファの知識提供

言語として英語を身につける上で、その背後にある歴史や文化、政治的事情を理解しておくことが非常に重要であると考えている。したがってテキスト選定の際には、さまざまな英語圏の国地域について包括的に学ぶことのできる教科書を採用している。英語の持つ豊かなバリエーションを知ることで、学生が非ネイティブであっても自分の話す英語が World Englishes のひとつのただと肯定的に捉え、自信につながるよう導いている。併せて、各国の歴史・文化・政治などの教養知識は、言語運用に深みをもたらしてくれるため、教員の能力の及ぶ限り、さまざまなトピックを提供するよう心がけている。

### 4. 教育の成果

本学への着任初年度ということもあり、手応えを十分に把握できていないとは言えない。が、授業アンケートにおいては概ね好評価を得るこ

## ティーチング・ポートフォリオ

大学名：大手前大学 所属：国際日本学部 名前：古川 拓磨 作成日：2025年12月10日

とができているし、一部の学生からは担当教員の授業を受講し、「興味が広がったため別科目の授業も履修したいと考えている」、などといった発言を寄せられた。向学心の高い学生の意欲を更に満足させられるような内容、関心の薄い学生にも学習意欲が上がるような内容で今後の授業計画を進めていきたい。

### 5. 改善への努力と今後の目標

受講者の興味関心を引く話題の提供、公平な評価基準を心がけているものの、発言が一部の学生に偏りがちになるなど、全員を包括的に取り込んだ授業運営には未だ苦心している。特に人数の多い授業（例えば「アメリカ人の国民性」は100名超の登録者）ではそれがより顕著であり、参加態度や課題への取り組みにもムラが見られる。授業アンケートの結果や、個別に寄せられたコメントなどを把握し、次年度以降の運営に反映させていきたい。

### 【添付資料】

各科目のシラバス、授業アンケート結果、使用教科書、テストをご参照のこと。